

31日 火曜

## 申命記

3:23 私は、そのとき、主に懇願して言った。  
3:24 「神、主よ。あなたの偉大さと、あなたの力強い御手とを、あなたはこのしもべに示し始められました。あなたのわざ、あなたの力あるわざのようなことのできる神が、天、あるいは地にあるでしょうか。」

3:25 どうか、私に、渡って行って、ヨルダンの向こうにある良い地、あの良い山地、およびレバノンを見させてください。」

3:26 しかし主は、あなたがたのために私を怒り、私の願いを聞き入れてくださらなかつた。そして主は私に言われた。「もう十分だ。このことについては、もう二度とわたしに言つてはならない。」

3:27 ピスガの頂に登って、目を上げて西、北、南、東を見よ。あなたの目のよく見よ。あなたはこのヨルダンを渡ることができないからだ。

3:28 ヨシュアに命じ、彼を力づけ、彼を励ませ。彼はこの民の先に立って渡って行き、あなたの見るあの地を彼らに受け継がせるであろう。」

3:29 こうして私たちはベテ・ペオルの近くの谷にとどまっていた。

カデシュという土地でイスラエルの民がモーセに、水がないと不平を訴えました。神様は杖を用いて岩に命ずれば水が出ると言いましたが、モーセは民に怒りを表わし、腹立ち紛れに岩をたたいたのです。神様はその行為について、”わたし（神）をイスラエルの人々の前に聖なる者としなかつた。”と言われました。神の憐れみを怒りに変えて表わしたのだから当然です。

のことからも大いに教えられます。私たちも御心ならどんな表現をしても良いと思いがちですが、



①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

そうではありません。どのようなことばを使い、どのような話し方や表情であるかが、神様を表わすからです。少なくとも聞く人はそれを感じます。

モーセはこのことで、約束に地には入れないことになってしまいました。そこで彼はもう一度懇願するのですが、「このことについては、もう二度とわたしに言ってはならない。」と主に言われてしまいました。

さらに主は「ヨシュアに命じ、彼を力づけ、彼を励ませ。彼はこの民の先に立って渡って行き、あなたの見るあの地を彼らに受け継がせるであろう。」とおっしゃったのです。人間的に考えれば、これまで苦労したモーセがかわいそうと思えなくもないでしょう。しかしモーセはそれを受け入れました。そして約束の地に入る前に自分がいかなくなることを知って、民に語り聞かせているのです。

彼はこれまでのわざが自分の力ではなく主によるものであることを知っていたのでしょう。人は主のわざを忘れるとき、見苦しい言動をとってしまうことがあります。またモーセは自分に対して主がこれからも良き方であると信じていたでしょう。すべての報いが主からきます。このようなモーセを模範としましょう。

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

